

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2013年1月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2013年1月1日発行 通巻237号(毎月1回発行)

**2013 年！仲間と一緒に
無事故で楽しい山行を**

目 次

・ 目次	2
・ 年頭のごあいさつ	会長 広木 国昭 3
・ 新年のご挨拶	理事長 吉田 哲治 5
・ 花博士の花便り	ふわくHS 中原 紀代治 6
・ 石巻支援の夕べを終えて	理事長 吉田 哲治 7
・	監事 平井 昭 8
・	事務局 角掛 絢子 9
・ ハイキング委員会報告	10
・ ハイキングリレーエッセイ	小川 誠一郎 11
・ 自然保護委員会リレーエッセイ	高橋 重 13
・ ROUSANパートナーズ	15
・ 県連便り	16
・ 1・2月予定表	17

表 紙 説 明

NPO法人「ちば労山ゆう」の支援コンサート「石巻支援の夕べ」を
11月29日（木）19：00 JR船橋駅前・きららホールにおいて
実施した。予定を超えた参加者が

矢口さんと糸賀さんのスナップです。機会があったら、もう一度聞きたいですね。

新年のごあいさつ

千葉県連盟 会長 広木 国昭
(ちば山の会)

新しい年を迎えました。

一年間、千葉県連盟活動にご協力をいただき有難うございます。

年頭のご挨拶に代えて、一年を振り返り新年度の抱負を紹介したいと思います。

2012年は、委員会行事を中心に活動を進めて多くの会から参加がありました。

- ・ **ハイキング委員会**：「房総ロングハイク」東大演習林で、「ウィークデイ山行」玉原高原には11会・51名が参加、委員長が先達になって取組んでいただきました。
- ・ **教育遭難対策委員会**：昨年、101名が参加し好評だった「事故防止・経験交流集会」は13会・52名が参加した。現在、全国的に好評な石田良枝先生に「山筋・ゴーゴー体操」の実技講習を実施しました。救助隊の指導で「セルフレスキュー」「搬送法」を学びました。事故防止、安全登山に有効な取り組みをお願いします。
- ・ **女性委員会**：第6回の「ワンコイン講習会」を成功させ、山形県最上町で開催された第12回「東日本女性登山集会」に16名が参加しました。他県連盟の仲間との交流は県連盟の大きな力になっています。
- ・ **自然保護委員会**：県連盟・統一クリーンハイクに8会・34名が参加しました。ヒルの巣に乱入し、何人かがその怒りに触れてしまいました。次年度は、場所・季節を考慮してほしいとの意見も出されました。
- ・ **関東ブロック自然保護担当者交流集会**：関東ブロックの地方連盟が当番で実施しています。自然保護委員会、地元のふわくハイキングサークル・君津ケルン山の会の協力をいただきました。次年度の他県連盟での実施にも参加をお願いします。
- ・ **救助隊**：毎月定例会を行い、隊員のレベルアップと講習会等での講師等の活動を行っています。隊長の思いを若い隊員が受け止めて、隊員も定着し活動の幅も広がっています。労山組織の高齢化、登山中のアクシデントへの対応等、今までの救助活動救助隊活動を見直し、新しい救助隊活動を構築する時期にあると思われる。
- ・ **機関紙委員会**：委員が一人のため、委員会も開催することが出来なかった。毎月「ちばニュース」を発行するのが精一杯の現状で、内容にマンネリを感じます。
- ・ **ホームページ部会**：部員二人で管理・更新している。ホームページの重要なことは周知の事実であり、ホームページからの入会が多い事も確認されている。ホームページ部会を機能させる事が急務である。一緒に考えてくれる人、いませんかー
- ・ **事務局について**：事務局員不在の状況が続いている。県連盟活動の要である事務局体制が確立しないと県連盟の躍進はない。現在は、委員会活動が県連盟を支えているので順調に見えます。しかし、県連の現状は厳しい運営を迫られています。

会員数は、721名（2009年）よりわずかではありますが増加して778名（2011年）になり、もう一息で800名になると思われました。

2012年11月末現在の会員数の報告をお願いしました。本日までに連絡をいただいた17会の合計ではわずかに？減少することが予想されます。

組織は、数ではないと思います、しかし、数の力も重要です。各会には、それぞれに難しい問題があると思います。その中でも「会員の高齢化」が大きな要因であることが報告されています。山の会・登山団体としては深刻な問題です。

・ **個人会員制度**：昨年9月より、全国規模で個人会員制度がスタートしました。千葉県連盟も制度や山行管理システムの実証活動に参加協力をするを理事会で確認しました。

会員の皆様には「安全登山サポートシステム」の実証活動に参加をお願いします。登録の方法などは、「ちばニュース」10月号に掲載してあります。千葉県連盟・全国連盟ホームページからも登録できます。登録から安全登山サポートシステムの使用は全て無料です。気楽に登録をお願いします。

◆ **NPO「ちば登山ゆう」**：2012年4月に立ち上げて石巻市を中心に支援活動を行ってきました。12月11日現在の正会員数・87名、賛助会員101名です。支援活動の一環として、バスハイク（10月21日・安達太良山）・石巻支援の夕べ（11月29日・船橋市）を実施しました。新しい支援活動として、全国に発信して被災地の現状を紹介したいと思っています。

2年目となる「ゆう」の活動を実施して行くために、被災地の支援活動を基本に、多目的な支援活動を模索して行くことになるでしょう。

- ・ 「ゆう」の活動については、「ゆう」の会員が決定し、活動する事が基本です。各会に情報が、敏速で正確に伝わる組織・体制が必要です。
- ・ 各会の参加方法は、会の現状にもよりますが、会が選択する。会と「ゆう」をつなぐ連絡員等を選出し、会・会員が参加しやすい「ゆう」をつくりたい。
- ・ 役員・理事については、被災地支援以外の行事、各種活動を定期的・活発に実施する時は、現行の体制では無理がある。役員・理事の増員、理事会の中に専門的な部署を立ち上げる必要がある。一例として、組織部・財政部・事業部等の実働部隊を考えて行きたい。
- ・ 被災地への支援活動について、被災地の求めている支援活動を最優先して行くことに変わりはない。しかし、被災地の現状は大きく変わっているが、千葉県からの支援活動は石巻市が中心になる。福島県内での支援活動も実現したい。
- ・ 「ゆう」の、正会員（87名）・賛助会員（101名）の拡大について、2年目になり、正・賛助会員の更新があります。長期会員をお願いするために会費の見直しも含めて1年間の総括をして長期の協力をお願いします。

新年のご挨拶にかえて、一年間の活動報告、お願いをしました。

今年度も、県連盟活動に参加・協力をお願いします。

以 上

新年のご挨拶

理事長 吉田 哲治

新年明けましておめでとうございます。

千葉県連ならびに NPO 法人ちば労山ゆうの理事長として、一言ご挨拶申し上げます。

あの震災より二度目の冬を迎えました。我々千葉県連は昨年春、災害支援を目的とした「NPO 法人ちば労山ゆう」を立ち上げて、支援を継続しているところです。NPO となってからも、石巻や南相馬へ毎月多くの方が足を運んでくださっています。本当に感謝申し上げます。そして、直接的な災害支援ばかりでなく、NPO としての活動をさらに広げたいと多面的な活動にも取り組んできました。10 月には、原発事故で今も多くの方が悩み苦しんでおられる福島への想いを伝えたいと、福島の名峰・安達太良山鎮魂登山を実施しました。11 月には、被災地・石巻より現地の方をお招きしての「石巻支援のタペー被災地への想いを歌おう」を開催したところです。どちらにも実に多くの方が参加していただき盛り上げてくださいました。重ねて御礼申し上げます。NPO 法人ちば労山ゆうは、微力ながらこれからも被災地・被災者に寄り添う支援を心がけていきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年も各委員会・救助隊には多彩な活動を実施していただきました。特に、自然保護委員会は、昨年は関東ブロックの自然保護委員交流集会の主管を担当していただきました。交流集会は清澄において実施し、房総の自然の特異性・多面性、鬼泪山の自然保護運動等の学習会を通して、房総の自然の素晴らしさを紹介していただいたかと思います。各委員会が県連活動の牽引役であるということは今更申し上げるまでもないことですが、各委員会・救助隊には本年も多彩な活動を期待しています。

一方、残念ながら昨年も何件かの事故が県連内において発生しています。幸いに、死亡事故こそはありませんでしたが、重大事故に結ぶつく要因をはらんだ事故があります。我々山岳団体には、極力事故を起こさない、起きないようにシステムの構築が求められていますが一朝一夕にできるものではありません。日頃の山行でのヒヤリハットは事故防止への生きた教材です。危険はどこに潜んでいるか、危険な要因はどこにありどうしたらそれらを排除できるのか、危険予知能力を向上させる教育・指導が求められていると思います。

私は沢登りが大好きです。ハイキングから始まって、縦走や冬山、岩登り、アイスクライミング、いろいろやってきましたが、沢が自分の感性に一番合っています。県連のみなさんもそれぞれに嗜好するジャンルがあり、好きな山、登り方があるかと思います。山という素晴らしいフィールド、それを媒体にして集う千葉県の仲間が、今年もそれぞれの会で、山で持てる力を思う存分発揮し活動していただきたいと思います。それには、極力事故のない一年であることを願っています。

今年一年よろしくお願いいたします。

花博士の花便り

ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

冬の花

房総で冬に早く咲く花は、ビワ、ヤツデ、ツバキ、フユザクラの木、キダチアロエ、ニホンスイセン、カンアオイなどの草花が有ります。

南房総では、正月にストックやポピー、菜の花が咲き観光で人気があります。

ニホンスイセン（ヒガンバナ科スイセン属）

今年は、寒いのでニホンスイセンが咲きません。我が家ではヤット1輪咲きました。ニホンスイセンは海岸線に多く、中国から流されて来たのではと言われます。

房総の名所は、鋸山のある鋸南町で、日本の三大水仙群生地と言われています。私が最初に知ったのは、“小保田”嵯峨山の真下です。郡界尾根縦走で咲いています。最近では、勝山まで続く江月スイセンロードや佐久間ダムと“をくずれ”水仙郷が有名になりました。香りの良いニホンスイセンは、毎年楽しみです。

キダチアロエ（アロエ科アロエ属）

アロエの種類は、世界では、300種あると言われていますが、日本で観られる種は5種程度で、キダチアロエが一般に言うアロエで育て易い品種です。原産地はアフリカの南部で“医者いらず”と言うように、健胃効果や下剤として便秘に、外傷や火傷の薬として昔から使われます。私が30年前に植えた。アロエは、直径が20センチ以上あります。霜に弱いですが、白浜の野島崎灯台近くでは、霜が降りないので、1月に満開の花が観られます。

カンアオイ（ウマノスズクサ科カンアオイ属）

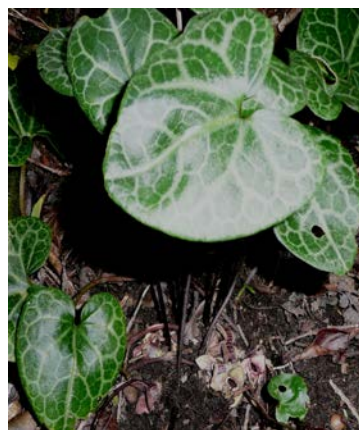
カントウカンアオイは、房総の尾根でよく見かけますが絶滅危惧種に入っています。花は、地中に埋って咲くので、無理に落ち葉を掻き分けて花を観ています。全国にも、この仲間は数種ありますが花の大きいタマノカンアオイやコシノカンアオイは、3、4月に咲き、観たことが有ります。徳川の家紋として使われている葉柄は、同種のフタバアオイです。カンアオイの葉は、ギフチョウの幼虫の食菜で知られています。



ニホンスイセン



キダチアロエ



カンアオイ

「石巻支援の夕べ」を終えて

理事長 吉田哲治

11月29日、船橋のきららホールにおいて開催された「石巻支援の夕べ―被災地への想いを歌おう」には、満席に近い260名もの多くの参加をいただきました。これもひとえに、昨年より災害支援に多くの力を入れてきた千葉県勤労者山岳連盟の組織体としての力の結実であり、NPO法人ちば労山ゆう会員各位の被災地・被災者を思う気持ちの表れだと思えます。主催者を代表しまして深く御礼申し上げます。また、募金箱には39,591円もの多くの志をいただきました。ありがとうございました。

昨年より被災地支援には多くの会員が参加し、今年の3月にはNPOを立ち上げて支援を継続しているところではありますが、直接被災地に赴く災害支援の他、NPOとして他の支援の仕方もあるのでないか、多面的あるいはメンタルな支援も方向性として考えていきたいというメンバーの思いの中から出てきたのが、10月の福島への想いを伝えたいと実施した安達太良山鎮魂登山でありますし、そして今回の支援の夕べです。

家庭の事情等により、支援に行きたくても行けない方も多くいらっしゃると思います。そのような方にも、被災地の実情を知ってもらいたいし、1年以上を経過して被災地への関心が薄れていくなかでも被災地のことを忘れないで欲しいし、そして、我々NPOの活動にも関心を持っていただき一人でも多くの方に活動に参加して欲しい、このような色んな思いで「石巻支援の夕べ」を開催させていただきました。

この集いに取り組み始めたのが6月です。なにぶん初めての試みでしたし、このような集いを経験したこともなく、半年の間、試行錯誤しながら進めてきました。

取り組むにあたってもっとも苦労したことは、毎月災害支援に石巻に行ってるといっても、出演者の石巻の岡さんや矢口さんと毎回顔を会わすことはできず、打ち合わせする機会があまり取れなかったことです。この点が今回の大きな反省点となりました。前半の挨拶・報告に多くの時間がさかれ、「被災地への想いを歌おう」と謳っているにも関わらず、メインの後半の歌声に十分な時間が取れませんでした。進行の不手際もありましたが、企画段階でのつめの甘さもあったことは否めません。鎮魂歌から明日へと向かう歌声へとつなげていきたい、復興へと向かう被災者への想いを歌声で伝えたい、という参加者みなさんの期待に十分応えることができなかったのではないかと、残念に思っているところです。

NPO法人ちば労山ゆうの活動は、今後も被災地における直接的な災害支援ばかりでなく、間接的・内面的な支援等、いろんな方面から被災地・被災者に寄り添う支援を心がけていきたいと思っています。今後もしばしばご支援・ご協力をお願いいたします。

2013年5月18日には、今回出演していただいた戸隠・糸賀さんの「アコールド」において、石巻の矢口さんを招いてのジョイントコンサートが開催予定です。支援の夕べでは、進行がうまくいかずに糸賀さんの歌声に十分な時間を取れずに申し訳ありませんでした。戸隠で、アコールドで、みんなで思いっきり歌いましょう！！

支援の夕べを終わって

(舞台上での反省点及び今後の課題)

NPO 監事 平井 昭

40 年振りの舞台の手伝いで、忘却の彼方に去ってしまったものが多々有り、反省しきりですが、今後、同じような形が有る事を前提に、問題点を上げました。

照明係

- ・最初のきららホールのスタッフのスタッフとの打ち合わせが出来なかった為に、プランと実際がかみ合っていなかった。
- ・全体の照明が把握出来ず、明暗のみで、鎮魂歌の時のスポットと周りのコントラストが、効果を上げて無かった。
- ・舞台が狭かったので合唱の場と単独の場との照明が一緒になってしまった。間を離し、鎮魂歌（単独）を歌う時は舞台の上手ギリギリに位置を決めた方が効果的だった。
- ・プロジェクターでの映像と客席の照明は、それぞれ邪魔をせず上手くいったが、プロジェクターの映像の手際が非常に悪く、その場で、どの映像を選択するか迷っていた部分も有り、映像は、順番に用意し、時間短縮を図る。

進行の面での必要

- ・舞台監督（以後監督と省略）を頂点にシステムが構築されていない
- ・監督が進行台本の基に時系列で進行状況を把握
- ・監督の下に時間管理をするタイムキーパーを置き、常に時間経過の状況を監督に知らせる。
- ・タイムキーパーは進行状況の遅速を監督に知らせ、監督は持ち時間の残数を指示する。
- ・出演者と監督との間に専用の連絡係を置き、監督の指示が直ぐに伝わるようにする（監督自身が動かず、定位置に居て、連携が取れるように固定）
- ・今回出演者の荷物が有り、移動する場合の携行品の移動が、専用スタッフが居ない為に不手際が多々あった。出演者の携行品が多い場合は、最初から荷物専用スタッフを揃える必要を実感。出演者に持たせてはいけない。
- ・最大の盛りあがりを期待していた、第二部終わりのアンコールが、時間が押して終了時間を超えてしまった為にカット。又目玉の鎮魂歌も 2 曲カット、アコーディオンの合奏と歌声に関しても半分にカット。時間管理の不手際によるものだが、バランスから云っても、映像部分が長すぎた事と、関係者の挨拶が時間超過したことに尽きるが、時間を管理する体制が出来ていなかった事が、最大の原因だった。ともあれ素人集団が、280 人弱の舞台を出来た事は、不完全とは言え、多くの協力ボランティアの結果だと感謝致します。

合掌！

石巻支援の夕べ 感想

「ちば労山ゆう」事務局 角掛 絢子
(千葉こまくさハイキングクラブ)

3. 11の大震災後、何かしなければといたたまれない思いで通い始めた石巻。実に多くの県連の仲間や友人が現地向い、汗と涙を流して来ました。瓦礫に埋まった所が少しづつ片付き、海には漁船や養殖用の筏が浮かび始めたのを目にして来ました。

支援先の牡鹿半島までは往復1000km以上。最初は気の遠くなるような距離に思えました。慣れて来るとさほど感じなくはなりましたが、誰でもが簡単に通える距離ではありません。

行きたくても行けない仲間に直接石巻の方々の声を聞いてもらおうと、この催しの計画が持ち上がりましたが、このような行事開催の経験の少ない私達だったので右往左往しながらの準備でした。

でも、蓋を開けてみれば満員の盛況でした。ご協力頂いた方、ご参加下さった皆様有り難うございます。

多少不手際がありましたが、熱く語り・歌う石巻の友人の姿に感動して頂けたのではないかとと思っています。少しでも現地の状況を知って頂いた上で、これからも続く支援にご協力頂ける方が増えれば良いな～と思っています。

支援の夕べから



矢口 清志さん



吉田理事長 挨拶・支援報告



岡 良一さん 現地報告



小山 真澄さん 司会者



斎藤全国連盟理事長

2012 年度 第五回ハイキング委員会 12 月 11 日 県連事務所

出席者 桑原、佐川、八巻、大田、小山、天野、中原、高見、吉澤、9 名（加藤 終了後）
議題

1、 第 29 回 房総ロングハイキング

2013 年 1 月 26 日（土）27 日（日）に決定。七里川温泉予約済。

二日目 コース下見の結果決定しました。

行程

6：00 七里川温泉出発—0：50—石尊山 6：50/55—2：30—麻綿原 9：25/50—0：10—

一杯水林道分岐ゲート 10：00—（一杯水林道）—0：20—WO（ツクバネ樫目印）入口 10：20/

30 出発—0：50—大平歩道入口地点 11：20/30—0：20—W15：烏帽子山山頂 11：50—0：05

—巻道合流先 11：55（昼食）12：30 出発—0：50—W33：硯石分岐 13：15/20—0：40—

樟林歩道入口：本沢林道 14：00/05—0：30—坂本駐車場 14：35 着予定です。

※安房天津駅まで約 30 分 JR14：54・15：58（千葉方面行き）、鴨川経由内房線もあり。

※送迎車ないので車移動が有ります。（参加者は出来るだけ公共交通機関をお願いします。）

参加者 松戸山の会 9、シリウス 1、 東葛 12、らんたん 0、岳人あびこ かがりび

市川 1、こまくさ 3、 ふわく 2、 ちば山の会 船橋山の会 君津 3、 計 31 現在

※直接参加の方は未だ余裕ありますので募集お願いします。

※リタイヤの場合は麻綿原でタクシーを呼ぶ（タクシー会社調べる）

東葛地区バス組 前日の山行の場所。

伊予ヶ岳（富山側から山頂～平群神社）・雨天富山水仙ロード

※バスは 27 名定員です。22 名参加決定ですので残 5 名です。早目に報告ください。

2、 ちばニュース掲載引き続き行いう事にする。 タイトル（山への想い）雑感

1 月小川、2 月加藤、3 月桑原、4 月小山、5 月八巻、6 月大田、7 月天野、8 月吉澤、9 月高見、10 月佐川、11 月中原、12 月山本、1 月佐藤、

（投稿順番決定しましたので必ずお願いします）

※ 前月の 20 日までに「ちばニュース」当分の間、会長広木様メールまでお願いします。

3、 次回 16 回平日山行決定

日時 6 月 6 日（木） 花の時期 （つつじの頃）

場所 前日光 古峯ヶ原（こぶがはら）高原 （コースは下見の上、決定）

下見 日時 4 月 25 日（木）前後

次回委員会 2013 年 01 月 15 日（火） 19：：00 県連事務所

低体温症体験記

ハイキング委員会 小川誠二郎
(岳人あびこ)

低体温症を経験された方はいらっしゃると思いますが、私の場合について記します。2009年7月5日に岳人あびこの定例山行で、奥多摩の水根沢に12名で入りました。

初心者参加許可の沢登りで、私は沢登りは2度目でした。靴、ヘルメット、ハーネスは借り物で、荷物の梱包は予め聞いていた通りビニール袋で個別に包んで水に漬かっても大丈夫なようにしました。難しい所ではリーダーやベテラン達が繰り出すロープに頼ったり、引っ張って貰ったりして、なんとかパーティーについて、岩の壁を登ったり横歩きしたりして進んでいました。やがて、小さな滝を横切るときに、滑って滝壺に落ちました。滝壺は足が立たない深さで、見上げれば頭上1メートルか2メートルのところで水面が銀色に煌いていました。ザックが浮き袋の作用をして、難なく岸の岩に泳ぎ着きました。気温は20度は超えていたでしょうが、暑い日ではなく、風は無く、薄曇りと晴れの混じり合った天候でした。水から上がって全身ずぶ濡れのまま、それでも寒いとは感じないで、パーティーについて歩行を続けました。寒さよりは、落ちるときに右脇腹の肋骨を岩の肌の凸凹にこすったために少し打ち身のような痛みがあり、いつそ岩を腕で押しやって飛び込んだ方が安全であったなどつつまらぬことを考えていました。しかし、多分、歩いているうちに、体温が下がって低体温症になっていたのでしょう。そのために、夢遊病者のように、ふらついた歩き方になっていたのでしょう。すぐ後ろの女性隊員が「寒いのでしょうか、雨具を出して着るといいですよ」と声をかけてくれました。そこで「はっ」と我に返り、それもそうだと思うって、リーダーにことわって横の砂地にザックを降ろして雨具を取り出して着ました。ずぶ濡れの半袖シャツの上に着たのですが、割合すぐに体温が上がったのでしょう、自分を取り戻した感覚を覚えました。やがて昼食休憩になりました。今度は別の女性隊員がテルモスの白湯を飲ませてくれました。それがなんとも美味しかったのは多分体調がそれで大きく回復したのでしょう。とにかく食事を摂り、体を拭いて着替えをして、なんとかまともな自分を取り戻しました。そうなってから思い返して、滝壺に落ちてからの自分は何を考え何をしていたのかと試みると、思考停止状態になって、寒いとも寒くないとも感じない、何をしようとも思わない、何をしなければいけないとも、何をすればいいとも、なーんにも考えない、不思議な状態にあったことを思いました。低体温症のことを話に聞いてはいたと思いますが、さほど身を入れて認識していなかったのも、我に返ってから、じわじわと、さっきのあれが低体温症かと、ぼつぼつ思い始めました。

このことがあってから11日あとの7月16日に、例のトムラウシでの9人死亡の遭難がありました。遭難した人はザックに防寒着や着替えや食料を持っていたが、低体温症による思考停止状態のために、それらを出して着るとか、何か食べてエネルギーを補給するとか、そういうことを発想しない、そのうちにますます体温が下がって意識を失う、そして凍え死ぬ、ということになったのだろーと思っっています。誰か一人でもまだ正常なうちに低体温症に気付いて、注意を呼びかける人が居ればよかったのですが、残念なことです。

また、2012年5月9日に白馬で福岡の医師のパーティー6名が遭難死亡したのも、低体温症とされています。テレビや新聞の最初の報道は、「軽装」としていましたが、私は咄嗟に低体温症だと思い、ザックには防寒着や食料を持っていたはず、低体温症による思考停止のために、それらを取り出して使う発想が湧かなかったのだと、周りの者に言っていました。周りの者は、6人居てそんなことがあるものか、そうなる前に誰かが気付くだろう、と言いましたが、その後の報道で、やはりそうでした。

無意識のうちに忍び寄る低体温症の恐ろしさを思います。

各人が低体温症の認識をしっかり持って、少しでもそれかと思えば、即座に声を掛け合って、装備の着用、エネルギー摂取に努める、という心得を持っていることが大事だと思います。以上

役員会からのお知らせ

千葉県連盟は、総会の開催を2年に1回に変更しました。2013年度は総会がありません。会計報告と予算の承認は理事会で行います。

2月24日（日）12時30分より、船橋市西部公民館において、県連理事会と会代表者の合同会議を実施します。詳細については、後日お知らせします。総会に次ぐ会議と位置づけて開催します。必ず出席をお願いします。

問い合わせなどは 千葉県連 会長 広木 国昭までお願いします。

Eメール：danphiro@zpoat.plala.or.jp 携帯 090-8316-2020

☆☆☆ ジャンル別ネットワークの募集 ☆☆☆

県連盟加入会が、会の枠を超えてジャンル別ネットワークを立ち上げて、交流をして楽しもうと動き始めています。

県連盟としても、バックアップ体制を強化して行きたいと思っています。まずはお試し山行などで顔合わせをしたいと思います。

この取組みの主旨に賛同していただける方、連絡をお待ちしています。

連絡先：千葉県連ホームページ「事務局への問合せ」までお願いします。

アンデス：ワイワッシュ山群（ペルー）とリアル山群（ボリビア）

岳人あびこ 高橋 重

6,000m 級の山々が連なる乾燥した高地からアマゾンの熱帯雨林まで変化に富んだ国ペルー、大使公邸占拠事件の救出作戦を思い出す方も多いただろう。イエルパハー（6,634m）などの巨峰が聳えるワイワッシュ山群を廻る 13 日間のトレッキング、途中でピューマ・リンリ（5,465m）とディアブロ・ムド（5,383m）に登り高度に馴れる。その後、世界最高所にある首都ラパスで知られるボリビアに移動、リアル山群のワイナポトシ（6,088m）とイリマニ（6,462m）に登る。チチカカ湖やウユニ塩湖を訪れ、インカ文明や南米の自然などにも触れる計画を加えて今年 6 月に出掛けた。

ワイワッシュ山群：メンバーは私達 3 人とスタッフ 5 人、ロバ 12 頭。登山は 2 峰とも 3 時前に出発、山頂では目前に大迫力で広がるワイワッシュの巨峰とロウラ山群や遠くに昨年歩いたブランカ山群の眺望を楽しんだ。ビクーニャ、ビスカッチャやコンドルなどの動物とペカペカ、ワマシ、カントウータやデビルズ・ソックスなど多くの花々に出会った。高地の谷に生えるケニユアルや集落周辺のユーカリは、木の少ない土地では建材として貴重な資源だ。110 km の行程の多くは羊や牛の放牧地と畑など地元民の生活の場であり、通行料やキャンプ料を支払った。生活圏を歩かせてもらうので、もっと徴収されても良いと思った。シウラ（6,344m）西側のサラポコーチャ湖へは、谷の草を食べてしまうロバが入れないとの情報もあり、行くのは諦めた。昼食用ボックスにはペピーノ、オレンジ、キウイ、パッションフルーツなどの果物が毎日入り、カカナン峠（4,700m）でスイカが出たのには驚いた。アンデス原産のジャガイモは 1,000 種以上あるというが、果物の種類も多い。ワラス（3,090m）に戻る前日、絶景の氷河湖ハフアコーチャ（4,075m）でマス釣りを食べた。朝晩の洗顔用のお湯や温かい食事、泊地でのテント設営など全てが用意され、普段は味わえない「遊山」に満足した。



イエルパハー、サラポ、シウラ（左から）



ワイナポトシ

リアル山群：ワイナポトシは『容易な 6,000m 峰』といわれるが、高度や雪山に馴れていなければ登れない。ゾンゴ峠（4,750m）BC まで車で入れる便利さが災いし高山病になって夜中にラパスに戻った外国人や、頂上手前の急な氷のリッジで身がすく

み引き返した登山者などにも出会った。早朝の、鋭く狭い山頂からはチチカカ湖、イリマニやサハマ（6,542m）などの峰々、どこまでも続く 4000m の褐色の高原が見えたが、混雑のため写真を撮って早々に下山した。

イリマニは、風雪のため 6,300m 付近で引き返した。ペルーのガイドから、山頂まで「Walk、Walk、・・・・」と聞いていたが、陽が昇ると下部まで見えて、暗い中での感覚と異なり急だと感じた。ハイキャンプ<ニド・デ・コンドル>（5,450m）からの下山は、靴を履き替え外傾の岩尾根を BC（4,450m）へ一気に下った。その夜の降雪で BC の風景は一変した。翌日、撤収に上がってきた女性ポーターは何と裸足にサンダル履きだった。『裸足のアベベ』を思い出し、「オリンピックに出れば早いだろうに」と話しながら、のんびりとしたピナヤ村に下山しボリビアの山旅は終わった。

地球の裏側で氷雪の山々を眺め、また岩石で出来た地球を感じた。初めての動植物、高地の農業、古代文明、温泉、市場、食文化等々に見聞を広め、楽しんだ 46 日間だった。

トイレ事情：宿は水洗だが、ロールペーパーは脇のボックスに捨てる。習慣で流して洪水になりかけ何度か慌てた。ボリビアの街なかには「BANO」の看板を出した 10 円～20 円程度の有料トイレが多い。ペルーの観光地でも有料トイレを見かけた。リマ、ラパスからの長距離バスはトイレ付だった。トレッキング中は、キャンプ地のコンクリート製トイレまたは径 30 cm 程度の穴を掘って仮説トイレテントを利用した（出発時に埋める）。ワイナポトシ BC のトイレ建屋には便器とバケツが用意されていたが、朝晩は近くの水が凍って水は流せなかった。



トイレテント（右）タウリパンパ



有料トイレ（エルアルト市）

お願い

ちばニュースは登山団体の機関紙です。山情報紙・個人山行・各会の山行等の紹介を多くしたいと考えています。原稿は、極力 A4 一枚・余白 上下左右 25mm 字体 明朝 12P 写真 1 枚程度 でお願ひします。

投稿締切りは、毎月 20 日を目標です。早めにいただくと編集者が助かります。

会行事や会自慢・総会情報などの投稿もお待ちしています。

何よりお待ちしておりますのは、ちばニュース発行のお手伝いです。

編集者より

一人でも入れる山の会 ROUSANパートナーズ



ROUSANパートナーズへの問い合わせは

千葉県連盟ホームページ・事務局への問い合わせまで

または、広木まで danphiro@zpost.plala.or.jp

まずは、安全登山システムを試してください。

会の山行管理にも使用できるシステムです。検討をお願いします。

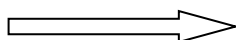
ホームページ <http://www.yama-tomo.jp> にアクセスしてください。

千葉県連でも入会を受付けます。一人で山を楽しんでいる友人・住居近くに山の会のない知人 などに紹介してください。

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX: 043-306-1190
Eメール: rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp
- ◎ 事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax: 043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号: ゆうちょ銀行
00130-7-595190
加入者名 佐藤 勝子
〒272-0023
市川市南八幡 1-25-16
- ☆ 事務局のお手伝いを募集中
事務所の片付け・資料の整理など
一人でもお友達と一緒にでも大歓迎です。
連絡は: 広木までお願いします。



NPO法人「ちば労山ゆう」

- ◎ 県連ホームページに
「ちば労山ゆう」入会は、ホームページからも入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
 - ・12月・1月の支援活動は、中止になりました・
- ・入会情報(12月11日)
正会員数 87名
賛助会員数 101名
合計 188名
県連会員数の、約24%です。
今年度中に、50%の加入を・・・
- ・入会をお待ちしています。
労山会員以外の方を歓迎します。友人、知人を紹介して下さい。

☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

県連盟総会が2年に1回になりました。2012年度の県連総会は実施しません。
会計報告・次年度予算は県連理事会で承認をお願いします。
2月24日(日)船橋市西部公民館で理事会・会代表者の合同会議を実施します。

Eメールアドレス
danphirp@zpoat.plala.or.jp

県 連 活 動 予 定 表

1月			2月	
1	火		1	金
2	水		2	土
3	木		3	日
4	金		4	月
5	土		5	火
6	日		6	水
7	月		7	木
8	火	役員会	8	金
9	水		9	土
10	木		10	日
11	金		11	月
12	土	第12回郡界尾根縦走	12	火 役員会
13	日	〃	13	水
14	月	〃	14	木
15	火	ハイキング委員会	15	金
16	水		16	土
17	木	県連理事会	17	日
18	金		18	月 救助隊定例会
19	土		19	火
20	日		20	水
21	月	救助隊定例会	21	木
22	火		22	金
23	水		23	土
24	木	自然保護委員会	24	日 県連理事・会代表者会議
25	金		25	月
26	土	房総ロングハイク	26	火
27	日	〃	27	水
28	月	教遭委員会	28	木
29	火			
30	水			
31	木			

発行者 千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190(事務所には常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治 編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ